

幼児の生活とテレビ

池山和子・平田睦美

(1991年10月15日受理)

The Television in the Life of the Infant

Kazuko IKEYAMA and Mutsumi HIRATA

I. はじめに

テレビが家庭に入ったこの30年は、子供の生活全体が大きく変化した時期でもあり、テレビと子供の関わりについても数多くの研究や調査がなされている。こうした研究、調査によって、テレビが子供にどのような影響を与えているか、あるいは子供のテレビ視聴にはどのような要因が影響を与えているか、またテレビと子供の関わりは年齢に伴って発達的にどう変化するかなど様々なことが明らかになってきている。しかしながら従来の研究・調査ではどちらかというとならテレビの方に主体が置かれ、例えば最近の戸外遊びの減少についても環境の中に存在するテレビは子供の遊びにどのような影響を与えているかという視点から論じられることが多かったように思われる。

他方、子供が現実に生活している環境全体の中で、その環境の中から子供自身が何をどのように選択し自分の生活に取り入れているのかといった子供の側に主体をおいた見方をすると、その子供に与えられた環境が物理的・心理的に狭く、テレビを見る他にあまり選択の余地がないような状況であるためにテレビを見続けていることも考えられるはずである。どんなに子供に好まれるように、子供を引きつけるように工夫して製作された番組でも、他の活動ができる状況でいつまでもテレビの視聴だけを続けるとは考えられない。ながら視聴をしながら番組の中の言葉の意味をひょいと尋ね、その言葉を覚えてしまうこともあるし、夢中になっていてもふとした母親のことばに耳をそばだてることもある。環境の中から何を選択するかということは当然その幼児の個性も反映しているが、幼児向け人気番組があるように、幼児全般に共通する傾向も当然存在し、その内容を知ることによって子供の理解をより深く理解することができるし、より良い環境も用意することが可能になると思われる。

本研究は、幼児の生活の中で特にテレビ以外の遊びとテレビの選択がどのようにして行われるかおよびテレビの中から具体的にどのような内容がどのような形で子供の活動や生活に取り入れられているかの2点について幼児の保護者を対象に質問紙調査を行い、検討を行った。

Ⅱ. 調査の方法

(1)調査の時期と調査用紙の配付

1990年(平成2年)10月末から11月上旬にかけて、各幼稚園を通じて配付、回収した。

(2)調査の対象

鹿児島市内4園、鹿児島市外(始良郡内)3園、あわせて7つの幼稚園の園児の保護者に回答を依頼した。このうち鹿児島市内の3園は、それぞれ、A幼稚園-市の中心部、C幼稚園-新興団地地区、B幼稚園-古くからの住宅地に位置しており、住宅密度の高い地域に所在する。市内のD幼稚園は、鹿児島市市境に近い農村地域に所在し、今回の調査では3歳児クラスのみを依頼した。鹿児島市に隣接する始良郡内のE、F幼稚園は田園地域に近い郊外住宅地に位置し、G幼稚園は山陵地域に所在する。D、E、F、G各幼稚園は先の3つの幼稚園に比べ、住宅密集度の低い地域に所在するといえる。

Ⅲ. 調査の結果と考察

(1)考察と対象

861名に配付、647票を回収した。回収率は75.1%であった。このうち2票が家庭にテレビを設置していないと回答していたので、この2家庭を除いた645票によって考察した。

〔表1〕調査対象幼稚園

幼稚園	住宅密度の高い地域 422(65.2%)			住宅密度の低い地域 225(34.8%)				計
	A	B	C	D	E	F	G	
人数	88 (13.6%)	152 (23.5%)	182 (28.1%)	20 (3.1%)	69 (10.7%)	103 (15.9%)	33 (5.1%)	647 (100.0%)

〔表2〕性別と満年齢

NA=9

	3歳	4歳	5歳	6歳	計
男児	19 (43.2%)	90 (52.0%)	129 (46.2%)	60 (42.9%)	298 (46.9%)
女児	25 (56.8%)	83 (48.0%)	150 (53.8%)	80 (57.1%)	338 (53.1%)
計	44 (100.0%)	173 (100.0%)	279 (100.0%)	140 (100.0%)	636 (100.0%)

〔表3〕性別によるきょうだいの有無 NA=1

	いる	いない	計
男 児	276 (92.3%)	23 (7.7%)	299 (100.0%)
女 児	314 (91.0%)	31 (9.0%)	345 (100.0%)
計	590 (91.6%)	54 (8.4%)	644 (100.0%)

〔表4〕性別とけいこ事 NA=5

	通っている	いない	計
男 児	144 (49.0%)	154 (51.0%)	294 (100.0%)
女 児	236 (68.2%)	110 (31.8%)	346 (100.0%)
計	380 (59.4%)	260 (40.6%)	640 (100.0%)

df=1 $\chi^2=24.368$ P<0.001

〔表5〕住宅形態—性別 NA=1

	一戸建	共同住宅	計
男 児	160 (53.7%)	138 (46.3%)	293 (100.0%)
女 児	176 (50.9%)	170 (46.3%)	346 (100.0%)
計	336 (52.2%)	308 (47.8%)	644 (100.0%)

〔表6〕近所に遊び友だちがいるか—性別 NA=3

	たくさん	少しいる	いない	計
男 児	76 (25.6%)	161 (54.2%)	60 (20.2%)	297 (100.0%)
女 児	83 (24.1%)	199 (57.7%)	63 (18.2%)	345 (100.0%)
計	159 (24.8%)	360 (56.1%)	123 (19.1%)	642 (100.0%)

考察対象の幼稚園別〔表1〕, および満年齢別〔表2〕, きょうだいの有無別〔表3〕, けいこ事に通っているかいないか別〔表4〕, 住宅形態別〔表5〕, 近くに遊び友達がいるかいないか別

〔表7〕 近くに遊び場があるか—性別

NA = 4

	たくさん	少しある	ない	計
男 児	41 (13.8%)	185 (62.3%)	71 (23.9%)	297 (100.0%)
女 児	42 (12.2%)	210 (61.1%)	92 (26.7%)	344 (100.0%)
計	83 (13.0%)	395 (61.6%)	163 (25.4%)	641 (100.0%)

〔表8〕 気軽に行ける遊び場があることと友達が近くにいること

1項目選択

項 目	たくさん	少しある	ない	計
たくさんいる	56 (8.8%)	92 (14.4%)	9 (1.4%)	157 (24.6%)
少しいる	23 (3.6%)	255 (39.9%)	81 (12.7%)	359 (56.2%)
いない	4 (0.6%)	47 (7.4%)	72 (11.3%)	123 (19.2%)
計	83 (20.5%)	394 (61.6%)	162 (25.4%)	639 (100.0%)

(NA=6)

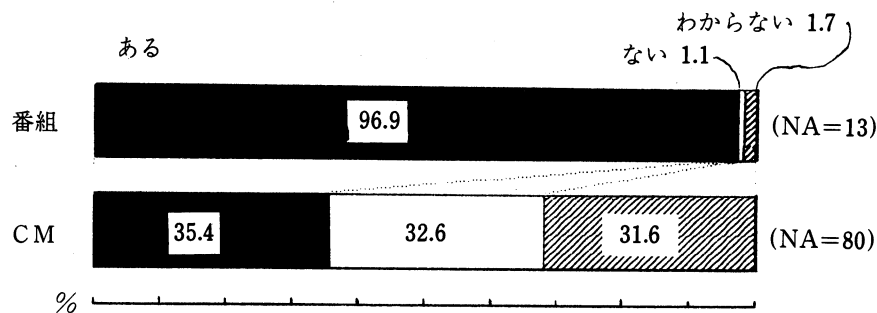
df=4 $\chi^2=177.812$ P<0.001

〔表6〕, 近くに遊び場があるかどうか別〔表7〕, を性別によってそれぞれの表に示す。

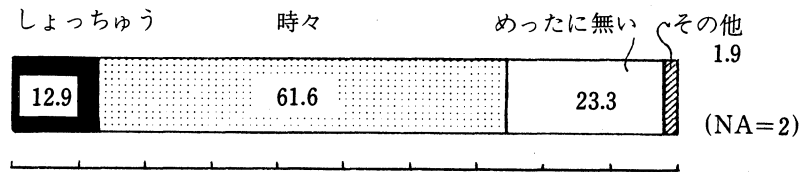
また〔表8〕は友達存在と遊び場の存在をクロス集計したものである。近くに友達となるような子供がたくさんいる場合には近くに遊び場もたくさんあり、遊び場が少ない場合は友達もいない環境である傾向が、わずかではあるがみられる。

(2)テレビと環境

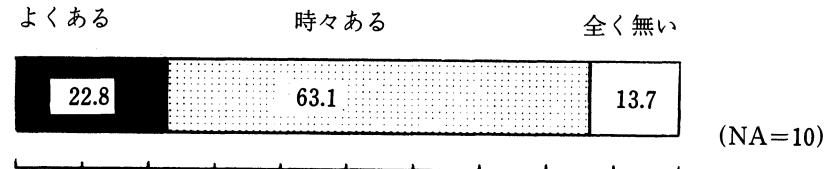
〔図1〕は、「いつも見る番組の中でも特に好きな番組, CM がありますか」という質問に対して、ある, ない, わからないのいずれかで回答を求めた結果である。特に好きな番組は96.9%があると



〔図1〕 特に好きな番組・CMの有無 N=645



〔図2〕CMを見てその商品を欲しがること N=643



〔図3〕TVを見ながら質問すること N=635

答えており、殆どの子供たちがテレビと深く関わることのある様子が見られる。一方CMに関しては、あるとはっきりした回答が35.4%と番組に比べかなり少なく、ないとの回答が31.6%となっている。

〔図2〕と〔図3〕はそれぞれ「テレビのコマーシャルを見てその商品を欲しがることがどのくらいありますか」および「テレビを見ていてその場で質問することがありますか」という質問に対する回答である。

生活の中でテレビの視聴とテレビ以外の遊びとどちらが多いか尋ねたが、この項目についていくつかの項目とのクロス集計により、有意差を調べた〔表9〕〔表10〕〔表11〕〔表12〕。近所に遊び場があるかどうか、遊び友達がいるかどうかについては、質問紙では「たくさんある(いる)」「少し

〔表9〕気軽にに行ける遊び場があることとテレビの視聴 1項目選択

項目	たくさん	少しある	ない	計
ア. TVの方が他の遊びより多い	2 (2.4%)	10 (2.5%)	8 (5.0%)	20 (3.1%)
イ. 他の遊びの方がTVより多い	60 (72.3%)	210 (53.2%)	68 (42.2%)	388 (52.9%)
ウ. 同じくらい	3 (3.6%)	40 (10.1%)	23 (14.3%)	66 (10.3%)
エ. 日によって違う	18 (21.7%)	132 (33.4%)	62 (38.5%)	212 (33.2%)
オ. その他	0 (0.0%)	3 (0.8%)	0 (0.0%)	3 (0.5%)
計	83 (100.0%)	395 (100.0%)	161 (100.0%)	639 (100.0%)

(NA=6)

注) …内検定で有意差なし

df=8 $\chi^2=24.316$ $P<0.01$

〔表10〕遊び友だちが近くにいることとテレビの視聴

1項目選択

項目	たくさん	少しいる	いない	計
ア. TVの方が他の遊びより多い	1 (0.6%)	12 (3.4%)	7 (5.7%)	20 (5.6%)
イ. 他の遊びの方がTVより多い	102 (64.2%)	179 (50.0%)	58 (47.2%)	389 (53.0%)
ウ. 同じくらい	13 (8.2%)	38 (10.6%)	15 (12.2%)	66 (10.3%)
エ. 日によって違う	42 (26.4%)	127 (35.5%)	43 (35.0%)	212 (33.1%)
オ. その他	1 (0.6%)	2 (0.6%)	0 (0.0%)	3 (0.5%)
計	159 (100.0%)	358 (100.0%)	123 (100.0%)	640 (100.0%)

注) …内検定で $\chi^2=7.66$ $P<0.05$ ($df=2$) $df=8$ $\chi^2=15.721$ $P<0.05$ 〔表11〕気軽に行ける遊び場があることとテレビの主人公になった
つもり遊び

1項目選択

項目	よくする	時々する	殆どしない	計
たくさんある	23 (27.7%)	43 (51.8%)	17 (20.5%)	83 (100.0%)
少しある	94 (24.0%)	194 (49.5%)	104 (26.5%)	392 (100.0%)
ない	14 (8.8%)	104 (65.4%)	41 (25.8%)	159 (100.0%)
計	131 (20.7%)	341 (53.8%)	162 (25.6%)	634 (100.0%)

(NA=11)

 $df=4$ $\chi^2=21.287$ $P<0.001$

〔表12〕住宅形態とTVの視聴

NA=3

	一戸建	共同住宅	計
TVの方が多い	12 (60.0%)	8 (40.0%)	20 (5.6%)
TV以外の遊びが多い	174 (51.3%)	165 (48.7%)	339 (94.4%)
計	186 (51.8%)	173 (48.2%)	359 (100.0%)

はある (いる)」「殆どない (いない)」「まったくない (いない)」の4つの選択肢を用意したが、
考察にあたっては「殆どない (いない)」と「まったくない (いない)」の選択者を合わせ、「な

〔表13〕 数量化Ⅱ類による分析結果

項 目	カテゴリー	n	ス コ ア	レ ン ジ	偏相関係数
遊び友達	たくさんいる	101	-0.0683	0.1356 ①	0.2011 ①
	少しはある	178	0.0142		
	いない	65	0.0673		
遊び場	たくさんある	61	0.0228	0.0316	0.0538
	少しはある	211	-0.0088		
	ない	72	0.0065		
VTRの利用	している	267	0.0114	0.0507 ④	0.0921 ③
	していない	77	-0.0394		
きょうだい	いる	320	-0.0032	0.0463 ⑤	0.463
	いない	24	0.0431		
けいこ事	通っている	218	0.0018	0.0049	0.0099
	いない	126	-0.0031		
住宅形態	一戸建て	177	-0.0012	0.0025	0.0049
	共同住宅	167	0.0013		
居住地区	市内住宅密集地域	237	0.0050	0.0161	0.0292
	郊外郡部	107	-0.0111		
TVの登場人物の 取り入れ方	身の回り品に	60	0.0329	0.0915 ②	0.1268 ②
	話す	33	-0.0586		
	つもりで遊ぶ	82	-0.0234		
	絵を見つける	64	0.0251		
	絵を画く	18	-0.0088		
	おもちゃや絵本	77	0.0111		
	その他	10	-0.0426		
性 別	男児	154	0.0228	0.0412	0.0875 ④
	女児	190	-0.0185		
年 齢	3歳	23	-0.0314	0.0512 ③	0.0653 ⑤
	4歳	95	0.0198		
	5歳	151	-0.0088		
	6歳	75	0.0023		

相関比 (r^2) 0.2645 判別的中率73.0%

い(いない)」の1つの項目として扱った。

テレビの方が他の遊びより多いと回答した者は全体で20名(5.6%)、他の遊びの方が多いと回答した者が339名(53.0%)で、今回の調査ではテレビ以外の遊び方が多いと回答した者の方が圧倒的に多い。これらの結果によると、テレビと他の遊びとどちらか多くなるかということには、近所に遊び友達となるような子供がいるかいないか、また気軽に行ける遊び場があるかないかということと関係があると考えられる。そこでこの質問に「同じくらい」「わからない」「その他」を選択した者を除いた359名について、テレビが多いか他の遊びが多いかを目的変数とし、質問紙の項目の9項目に居住地域を加え10項目を説明要因として林式数量化理論によって分析を行った。結果は、〔表13〕の通りである。精度は相関比は0.2645であり高くないが判別の中率は73.0%で充分とは

いえないが一応の高さと考えられる。表中○囲み数字はレジンと偏相関係数それぞれの高い方からの順位である。双方とも項目「遊び友達」が最も高く、ここに挙げた10要因の中では目的変数に与える環境が最も大きいと考えられる。2位は、テレビの登場人物の取り入れ方であるが、この質問項目は、好きなテレビの登場人物に関して生活の中でどのような言動が見られるか、その他を含め7選択肢を挙げて子供が最もよくすると感じているものについて選択を求めたものであり、子供本人の個性や性格を反映する要因として取り上げた項目である。説明要因として取り上げた10項目で6位以下の項目についてはクロス集計による検定でも有意な差は見られなかった。

〔表14〕に「もし家庭からテレビを無くしたら子供にとってどんな影響が出ると思うか」という質問についての結果を示す。それぞれの項目について遊び友だちと遊び場のそれぞれについてクロス集計を行い、その結果有意な差のあった項目について数字を挙げた。全体で選択数の最も多いのは「戸外遊びが増えたり遊びが豊かになったり良い影響があると思う」の項目で74.7%が選択している。この項目については、近くにしょっちゅう気軽に行ける遊び場が少ない場合の方が、選択の割合が大きい。テレビがもしなくなったら子供は「することがなくなって困ると思う」を選択した者は最も少なく、全体で13.3%である。この項目について、近くに遊び友達がいるかないかによ

〔表14〕 テレビを無くした時に起こると思われる子供への影響

項目〈3項目選択〉	項目選択者数				
オ. 戸外遊びが増えたり 遊びが豊かになったり	479 (74.8%)				
	§近所の 遊び場	たくさんある 53(63.9%)	少しある 296(75.9%)	ない 128(79.0%)	$\chi^2=7.074$ * NA=10
ウ. 知識をえることが できなくなる	352 (55.0%)				
イ. 友達と共通の話題 がなくなる	349 (54.5%)				
	§近所の 友だち	たくさんいる 113(71.5%)	少しいる 184(51.8%)	いない 52(42.3%)	$\chi^2=26.888$ *** NA=9
エ. 生活の時間の区切り が無くて困る	113 (17.7%)				
ア. することがなく なって困る	85 (13.3%)				
	§近所の 友だち	たくさんいる 15(9.5%)	少しはいる 46(13.0%)	いない 24(19.5%)	$\chi^2=6.110$ * NA=9
カ. その他	178 (27.8%)				
計	640 (100.0%)				NA=5

注) §は各項目を選択した者について

***P<0.001 *P<0.05 各 df=2

〔表15〕 主な遊び場と近所の友達

3項目選択

項 目	近所に遊び友達がいるかいないか			有意差 df=2	計 (NA=3)
	たくさん	少しいる	いない		
イ. 自宅の中	101 (63.5%)	300 (83.3%)	109 (88.6%)	$\chi^2=34.350$ ***	510 (79.4%)
ウ. 友達の家	119 (74.8%)	221 (61.4%)	31 (25.2%)	$\chi^2=74.410$ ***	371 (57.8%)
エ. 公園	79 (49.7%)	153 (42.5%)	53 (43.1%)		285 (44.4%)
ア. 自宅の庭	33 (20.8%)	145 (40.3%)	70 (56.9%)	$\chi^2=39.181$ ***	248 (38.6%)
カ. 団地内の 遊び場	81 (50.9%)	72 (20.0%)	4 (3.3%)	$\chi^2=94.185$ ***	157 (24.5%)
キ. 学校や園 の運動場	18 (11.3%)	48 (13.3%)	24 (19.5%)		90 (14.0%)
ク. 近所の路地 や道路	10 (6.3%)	54 (15.0%)	24 (19.5%)	$\chi^2=11.410$ **	88 (13.7%)
オ. 近所の 空き地	17 (10.7%)	38 (10.6%)	5 (4.1%)		60 (9.4%)
シ. その他	7 (4.4%)	14 (3.9%)	14 (11.4%)	—	35 (5.4%)
コ. たんぼや畑	4 (2.5%)	12 (3.3%)	11 (8.9%)	$\chi^2=8.659$ *	27 (4.2%)
ケ. 野原・土 手・林等	1 (0.6%)	1 (0.3%)	1 (0.8%)		3 (0.5%)
サ. 寺や神社	0 (0.0%)	2 (0.6%)	1 (0.8%)		3 (0.5%)
計	159 (100.0%)	360 (100.0%)	123 (100.0%)		642 (100.0%)

***P<0.001 **P<0.01 *P<0.05

る選択の違いが有意であり、友達が少ない方が、選択の割合も多くなっている。一方全体の選択数3位の「友達と共通の話題がなくなって困ると思う」と回答した者については、近所に友達がいる方が選択が多く、友達との活動の中にテレビの内容が取り入れられていることがうかがえる。

近くに気軽に行ける遊び場があるかないかと別に、主な遊び場として、その他を含め12項目を挙げ、3項目の選択を求めた。その結果が〔表15〕である。全体で最も多いのが「自宅の中」で、79.4%が選択、第2位は「友達の家」で57.8%である。各項目毎に近くに遊び友達がいるかどうかによってクロス検定を行った。近くに友達がたくさんいる場合は、いない場合に比べ、友達の家で遊ぶ比率が高く、友達がいない場合は自宅の中や自宅の庭、近所の路地や道路など自宅の周りで遊ぶ比率が高い。団地においては同じくらい年齢の友達も多く、遊び場も団地内に設けられた遊び

場を気軽に利用して戸外で遊ぶことがしやすいと思われる。

以上の結果をまとめると、家の近くに遊び友達となるような同じくらいの年齢の子供がたくさんいる場合、子供の家は外へ出て活動することが誘われ、テレビ以外の遊びがテレビの視聴より増えるのではないかと考えられる。逆に友達がいないと家の中で遊ぶことが増え、結果としてテレビが他の遊びより増えることが考えられる。また自由記述回答の中にも「以前は家の中でテレビを見ていることが多かったが、幼稚園に入園して友達ができるととたんに外で遊ぶことが増えた」という記述があった。しかし友達の存在はテレビの視聴を消してしまうのではなく、友達との活動の中にテレビの内容が使われている。また友達の存在は遊び場があるかどうかという要因より子供をテレビ以外の活動へ誘う力が大きいのではないかと考えられる。

Ⅳ. 性別によるテレビの取り入れ

好きな画面、見ようとしない場面や番組、特に好きな登場人物、好きな登場人物に関する行動、テレビの主人公になったつもりの遊び、テレビのまねの具体的内容について、それぞれ性別とのクロス集計と有意差の検定を行った〔表16〕～〔表20〕〔図4〕。

男児と女児ではテレビの取り入れの具体的な現れに差が見られる。

〔表16〕好きなテレビの画面—性別による傾向

3項目選択

項目	男児	女児	計	χ^2 値, P
カ. アニメの動きが きれい ○	199 (66.6%)	274 (79.4%)	473 (73.5%)	$\chi^2=13.594$ ***
ア. 物語のすじで 夢中になれる	184 (61.5%)	192 (55.7%)	376 (58.4%)	
イ. 自分と同じくら いの年齢の子供 ○	130 (43.5%)	205 (59.4%)	335 (52.0%)	$\chi^2=16.310$ ***
キ. 明るい感じの歌 の流れる ○	90 (30.1%)	160 (46.4%)	250 (38.8%)	$\chi^2=17.867$ ***
エ. 本物の動物が 出ている	112 (37.5%)	107 (31.0%)	219 (34.0%)	
ク. その他	48 (16.1%)	18 (5.2%)	65 (10.1%)	
ウ. 本物の乗り物が 出ている ■	58 (19.4%)	4 (1.2%)	62 (9.6%)	$\chi^2=61.241$ ***
オ. 赤ちゃんが出て いる ○	10 (3.3%)	33 (9.6%)	43 (6.7%)	$\chi^2=9.948$ **
計	299 (100.0%)	345 (100.0%)	644 (100.0%)	NA=1

注) ○女児の方が多い, ■男児の方が多い

各 df=2 ***P<0.001 **P<0.01

